

経済為替ニュース

SUMITOMO MITSUI TRUST BANK, LIMITED FX NEWS

第2318号 2016年07月19日(火曜日)

《 Post-Brexit market 》

今週は既に海外市場が動き出していますから短めに。日本の週末の間にもトルコでのクーデター未遂とかアメリカでの再びの警察官銃撃事件などいろいろありますが、「マーケットは五里霧中」の状態から、米大統領選挙の動向を含めて日程的にはかなり先が見えてきた印象がしました。

まずイギリスでは予想外に素早く新首相としてメイ内相が就任し、組閣を終えた。一番肝心の離脱担当大臣には強硬な離脱派とされるデービッド・デービス氏が就任、同氏は英紙サンのインタビューに応じ、「早ければ今年中、遅くとも来年初めまでには「離脱を通告」と述べた。メイ首相の「時間をかけて」とちょっとニュアンスが違う。

彼はこの記事ではかなり微妙な表現を使いながら離脱を語っている。例えば「David Davis called for a "brisk but measured" approach, with a likely exit from the EU around December 2018. He said the "first order of business" should be to strike trade deals with non EU countries.」

ここで一番重要なのは、「イギリスは2018年の12月頃にEUから離脱する」という具体的な時期を示している点。年内に離脱通告・交渉開始となれば、期限は一応2年なので実際にそうなる。しかしこの文章には「Meanwhile his predecessor, Oliver Letwin, warned the UK had no trade negotiators to lead its exit talks.」という文章もある。外相のジョンソンがEUサイドから「嘘つき政治家」と言われているからなかなか難しい。

一方でスコットランドのスタージョン行政府首相は、「早ければ来年にももう一度“国民投票を”」と語った。スコットランドの前回の投票によるイギリス連合王国残留は、同国のEU残留が前提だったから、イギリスがEU離脱なら「スコットランドはEUに残る」と彼女が主張することは理解出来る。もっともメイ・イギリス首相は、「スコットランドの住民は2014年に明確な意思を示した」と拒否の姿勢。

イングランド銀行は予想された利下げを見送った。まだ情勢が不透明と言うことが理由だと思う。しかし離脱後の騒動により、イギリスの旅行会社が倒産などして、徐々にその影響がイギリス経済に見えてくることは明確であり、今週は離脱越えで盛り上がったマーケット全体がどう今後展開するか状況判断が出来そうだ。

トルコの非主流派軍部によるクーデター未遂事件は、エルドアン大統領が犠牲者を出しながらも押さえ込んだ。大統領の勝利。しかしこれで彼が抑圧的支配を強めれば、逆に世界

的に孤立して統治は長続きしないと思う。逮捕者は 6000 人に及んでいる。同大統領が首謀者とするギュレン氏（アメリカ在住）の送還を巡って今度はアメリカ政府と対立の様相。クーデターが早期に押さえ込まれたためにマーケットへの影響は限定的かも知れないが、「不安定な中東」は投資家の頭に印象として残るだろう。

今週のマーケットは先週末の Goldilocks 的なハッピーな状態からどのくらい自律調整し、その後の展開はどうかを見る上で興味深い。

- - - - -

今週の主な予定は以下の通り。

- | | |
|-------------|--|
| 07月18日（月曜日） | 中国6月主要70都市の新築住宅価格 米共和党大会（～21 オハイオ州クリーブランド） 休場=タイ |
| 07月19日（火曜日） | 東証マザーズ指数先物が大阪取引所に上場 独7月ZEW景気予測指数 米6月住宅着工 休場=タイ |
| 07月20日（水曜日） | 6月粗鋼生産 6月百貨店売上高 6月訪日外国人客数 6月コンビニ売上高 |
| 07月21日（木曜日） | 19日時点の給油所の石油製品価格 6月スーパー売上高 欧州中央銀行理事会 ドラギ ECB 総裁が会見 米7月フィラデルフィア連銀製造業景気指数 米5月FHFA住宅市場指数 米6月コンファレンスボード景気先行指数 米6月中古住宅販売 |
| 07月22日（金曜日） | 米6月半導体製造装置BBレシオ(7:00) |

今週と来週はやはりアメリカ大統領選挙が焦点でしょう。米共和党の全国大会（クリーブランド）がまず今週あって、来週は民主党の全国大会（フォラデルフィア）。共和党で最後まであった「トランプ排除」の動きは失敗したようで大統領候補にドナルド・トランプ、副題党候補にマイク・ペンス両氏が決まる。

共和党のそれがどんな大会になるのか。歴代の共和党出身の大統領、副大統領の大部分が欠席、去年から今年にかけてトランプと戦ったほとんどの候補が欠席。結果、非常に珍しい人達（モデル、お笑い芸人なども）が壇上に上がってクリント攻撃を展開するらしい。親ト

ランプと反トランプの混乱が起きないか心配。

ヒラリー・クリントン氏はどうやら「盛り上げ」の為に21日以降の民主党大会の接近を待って副大統領候補を決めるらしい。トランプが盛んにポカ... なんとかという憚られる単語を使っていたウォーカー女史はないらしい。つまり「男と男」(共和党)対「女と女」(民主党)の対立構図はなくなったようだ。

支持率は直近ではどうなっているのか。ニューヨーク・タイムズの調査で「拮抗。一部激戦州でトランプ有位」と伝えられたが、この週末の調査を見ると「Hillary Clinton Maintains 5-Point Lead Over Donald Trump」(WSJ と NBC)となっている。この調査では「依然として5ポイントのクリントンリードが続いている」と。FBIの判断の前も後もクリントンの5ポイントリードらしい。

ワシントン・ポストとABCでは「Clinton holds narrow lead over Trump on eve of conventions」と。どのくらいnarrowかということ「Clinton leading Trump by 47-43 percent among registered voters」。つまり3ポイント。誤差のうちでしょう。しかしトランプのチケットが「白・保守-白・保守」になったことも有るのですが、ヒスパニックの僅か14%がこのチケット支持。女性も離れているとなれば、このチケットが勝つのは容易ではない。

えっと、その先は来年3月にオランダの議会選挙があって、同年5月にはフランスの大統領選挙がある。オランダではウィルダース党首率いる極右・自由党がどのくらい伸びるか。ニースでも大きなテロが起きて、それはチュニジア系の仕業と報じられている。ドイツの総選挙は9月だったかな。今はメルケル不支持が多い。

フランスの大統領選挙ではオランダは出ないだろうな。あの支持率では。閣僚の中からも「来年の大統領選挙に向けた動きをする輩」が出て、フランス国内は政治的にもちよつとガサガサ。サルコジなんて懐かしい名前が出てくるでしょうが、焦点はルペンかな。

《 have a nice week 》

3連休はどうでしたか。天気が良いのか悪いのか。先週水曜日に表参道で蟬を見付けたので、「今週末は東京でも蟬がうるさくなるかも」と思ったら、その通りでした。既に先週の前半の大阪では大阪城公園あたりで蟬が大騒ぎでした。

トルコでのクーデターは驚きました。しかし歴史を見ると何回もそれはトルコで起きている。しかし過去のそれは軍部をあげてのそれだったが、今回は非主流派の一部が動いただけ。よって失敗したと思っています。イスタンブールは世界でも好きな都市の一つ。ガラタ橋の釣り人やボスポラス海峡を行き交う船を見ていて見飽きない。何千年も前から、誰が来て誰が去ったのか、主要な人の動静は全て記録されていると聞いた。凄い国際都市で、あれはあのまま残って欲しい。

それでは皆様には良い一週間をお過ごし下さい。

《当「ニュース」は三井住友トラスト基礎研究所主席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)の相場見解を記したものであり、三井住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情報源から入手したのですが、正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》